
双璧のクロニクル

落合 ななせ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

双壁のクロニクル

【Nコード】

N9110V

【作者名】

落合 ななせ

【あらすじ】

千年前に自害したという伝説の少女、ノエル・カティルダ。シユバリエの里に住むキーマ族の人々は、人類最強と名高い彼女を崇め、その墓を護り続けてきた。しかし、一族の青年であるクラウスが彼女の墓に描かれた魔方陣を見つけたことにより、事態は思わぬ方向へと転じていく。

あやふやに、おぼろげに、ぼやけてたゆとう存在があるとするならば。

今のわたしは多分、それだ。

何かから解き放たれて、感じることも、感じられることもなくなってしまうた。

だから、これはわたしの記憶なのだろう。鏡を見ているような古い感覚は、故にわたしを懐かしくさせる。

あのとき、わたしは確かに生きていた。

今、このとき、わたしは。

世界はとても広いのだと彼は言った。遠く遠く伸びて、どこかに繋がっているのだと。だからひとはどこへだって行けると、彼は言った。

それはいつだって正しくて、けれど少し間違っている。

わたしたちにとって世界は、ほんの小さな、狭いものでしかない。ちょうど、鳥かごの中の鳥が、届かない空の世界に憧れを抱くように。目に映らない世界は、ただ形のある幻で。健気にわたしたちを慰めてくれるけれど、決して救ってはくれないのだ。

そうやって繰り返し、いつまでも、いつまでも。

ひとは、なんて。

「なんて、寂しい」

誰かの声が涙に浮かんで、光と共に流れた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9110v/>

双壁のクロニクル

2011年10月9日13時26分発行